

ティーチング・ステートメント

所属 工学部建築学科

名前 吉津 利洋

作成日 2024年2月26日

【責任】

工学部建築学科に所属し専門科目である建築構造系を中心とした教育・活動を行っている。主たる教育活動は、建築構造に関連する科目(建築構造力学Ⅱ、鉄筋コンクリート構造、地盤と基礎、建築構造計画)の担当およびゼミ生の研究指導である。(シラバス)

【理念】

建築学科の学生には、建築技術者として建設業界で活躍し、この業界をリードできる資質を身に付けることを目標としている。建築物は、工業製品とは異なり、単品製品となるため、様々な人達(関係者)が製品の完成に関与している。当該製品の製造に関連する関係者の作業をコントロールするためには、責任感と協働性および建築知識がとくに重要となる。とくに建築知識を有する関係者をコントロールするためには、技術者として専門知識が必要となってくる。そこで、学生には、この大学では、責任感、協働性および建築知識の3点の資質を獲得または吸収して欲しい。さらに、建築技術者に触れる機会が少ない学生には、この資質を有する技術者として、民間企業に在籍した知識を活かし、学生に実務知識を提供することを考えている。

【方針・方法】

建築技術者としての資質を身に付けるため、専門知識の修得、協調性の確保するため次に示す教育活動の方法・方針を実施することとする。

[建築技術者の手本]

学生に対しては、授業時間や卒業研究の開始時間(授業開始 20 分迄に準備を完了させる)を守るとともに、板書による講義を行っている。(授業評価)

卒業研究では、ゼミ生自身で鉄筋コンクリート部材の作製作業(配筋、型枠、養生、脱型)および部材の加力実験等を円滑に行える様に、機器類の操作と指導とし、学生の安全性の確保に注意を払っている。(授業評価)

[専門知識の習得方法]

(方法 1) 毎回の授業では、必ず課題を課し、専門知識の修得向上を行っている。また、その課題の中では、一級建築士試験問題、二級建築士試験問題を含めるとともに、常に最新版の問題に更新して、なるべく早期(卒業後)に建築士試験に合格しやすい環境づくりを行っている。(課題問題)

(方法 2) 専門的な基礎知識の修得のため、授業時間以外に補講等を行うとともに、時間の許す限り、教員室で個別補習を実施し、修得向上を行っている。(授業評価)

(方法 3) 卒業研究では、研究テーマ(1 学生/テーマ)ごとに発表会を行い、専門知識の修得向上を図っている。(授業評価)

[協働性の確保]

卒業研究では、研究テーマ毎に分けず、ゼミ生全員で部材試験体の作製作業(配筋、型枠、養生、脱型)および部材の加力実験等を実施し、責任感と協働性を身に付けさせている。(授業評価)

【成果・評価】

・「建築構造力学Ⅱ」科目では、中間および定期試験の平均点が前年度と比較して2点(52点)上昇した。(授業評価)

・「鉄筋コンクリート構造」科目では、定期試験の平均点が前年度と比較して4点(53点)低かった。実務に即した試験問題であったためと考えている。(授業評価)

・弊ゼミ室からの資格取得者は、二級建築士取得者1名、一級建築士(学科)取得者4名であった。

・弊ゼミ室から就職活動で、建築研究開発1名、地下躯体設計者名、弊学進学1名であった。

(学生の進路データ)

【目標】

[長期目標]

弊ゼミ生の大半が、建築系の資格取得した建築技術者になっていること。

[短期目標]

弊ゼミ生から、一級建築士または二級建築士資格を取得した建築技術者になっている事(2026年目途)。